



みなとからの風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1 / TEL 045-628-6100(代)
http://www.yokohama.jrc.or.jp/

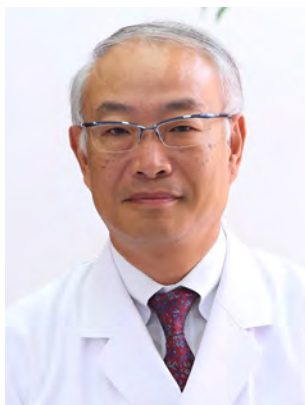
・発行：2020年5月 医療連携センター

Contents

- ・ JMIP受審と国際医療部のご紹介 P1
- ・ 当院の循環器内科診療の特徴について P2
- ・ がんゲノム医療連携病院に指定されました P3

JMIP受審と国際医療部のご紹介

副院長兼国際医療部長 渡辺 孝之



横浜市立みなと赤十字病院は、4月に開院15周年を迎えました。これまで取り組んできた救急医療や地域連携の一層の充実とならんで、病院の国際化対応を新たな取り組みとして新年度をスタートしています。

2019年の訪日外国人数は推定3,200万人。この数は10年前の4.7倍ですが、今後さらに増加することが予想されています。みなと赤十字病院は、羽田空港や大型客船が接岸する横浜港に近いことから、外国人の患者さんに適切に対応していく必要があります。横浜在住の外国人も10万人を超え、中区は最も多くの外国人が住んでおられます。こうした外国人の方が、病気や怪我をされたときに頼りになる医療機関がなければ、どんなに心細いことでしょうか。当院は、従来から外国人の患者さんの診療を行ってきましたが、院内表示や文書の多言語化は十分とはいえませんでした。外国人の生活習慣、特に食事や宗教上の問題にしっかり対応していく必要があります。

そこで、7月を目途に外国人患者受け入れ医療機関認証制度(JMIP)の審査を受審し、これらの対策を万全にして行くことになりました。その第一

段階として、1月1日に国際医療部を新設し、外国人患者さんのニーズを満たすべく、院内全ての部署と連携しながら、JMIP受審のための準備を進めているところです。外来受付や診療科、病棟といった大きなところからエレベーターやトイレの中にあるまで、表示の多言語化を推進します。医療上の説明書や承諾書も英語や中国語に対応していきます。病院食も宗教上や食習慣の違いに可能な限り配慮した内容になります。一番大事な患者さんとのコミュニケーションツールとして、通訳や翻訳のデバイス機器を導入してきめ細かな対応ができるようにしていきます。

夏頃には皆様にも国際化に対応した病院として生まれ変わった姿をご覧いただけたと思います。どうぞご期待ください。



国際医療部のメンバー

当院の循環器内科診療の特徴について

循環器内科部長 山内 康照



循環器内科の仕事は大きく分けると、①虚血、②不整脈、③心不全の3本柱ですが、最近では心臓弁膜症に対するカテーテル治療や左心耳閉鎖デバイスの植え込みなどの心臓

構造に対する治療、いわゆるストラクチャーが第4の柱となりそうな勢いです。

当院でも経カテーテル大動脈弁治療(TAVI)を昨年より始め、合併症なく順調に施行できており、とても有効な治療であることを実感しています。虚血性心疾患に関しては、外来で冠動脈CT、心筋シンチグラムにより心筋虚血の評価を、入院では冠動脈造影時に冠動脈プレッシャーガイドワイヤーによる冠血流の生理学的評価を行い、冠動脈血行再建(カテーテル治療、バイパス手術)の適応を慎重に検討しています。

カテーテル治療に関しては、通常のバルーン・ステント治療の他に高度石灰化病変に対するロータブレード治療、分岐部病変に対する冠動脈粥腫切除術(DCA)、慢性閉塞性病変に

対する治療なども積極的に行っています。

不整脈に関しては、主に心房細動治療が多くを占めますが、昨年は日本循環器学会が出している心房細動ガイドラインも改訂され、難治性の心房細動に対しては化学的アブレーションが有効であるという文言が初めて記載されました。化学的アブレーションに関しては、当院の沖重医師が日本で初めて導入を行い治療の有効性を証明しました。他院でアブレーションを受けても治らなかった患者様に対し、化学的アブレーションを行い根治に至った症例は枚挙に暇がありません。当院の不整脈診療のもう一つの特徴は、心房細動に対するクライオバルーンを用いた左房後壁隔離術を考案し、その良好な成績を学術論文に発表し、実践していることであります。

心不全診療に関しましては、救急科とともに急性心不全患者の積極的な受け入れを行っています。高齢化に伴い心不全患者の増加が予想されており、今後はさらに病診連携を発展させつつ、地域医療の貢献に邁進したいと思っています。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



循環器内科医師

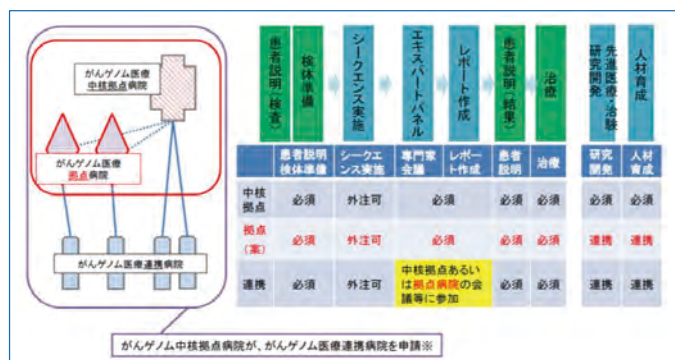
がんゲノム医療連携病院に指定されました

がんゲノムセンター長 山本 晃

2018年3月に閣議決定された第3期がん対策推進基本計画では、分野別施策として、「がん予防」「がん医療の充実」「がんとの共生」が掲げられ、がん医療の充実の中に、「がんゲノム医療」が第一に取り上げられました。

当院は2020年1月1日、厚生労働省より「がんゲノム医療連携病院」の指定を受け、4月より「がんゲノム医療拠点病院」である神奈川県立がんセンターと連携・協力して、がんゲノム医療の提供を推進して参ります。

今後は、院内のみならず、院外の紹介患者さんを受け入れる体制を整備して参ります。



＜がんゲノム中核拠点病院等の機能(厚生労働省より)＞

＜がんゲノム医療とは？＞

生検や手術などで採取されたがん細胞を用いて、高速で大量のゲノム情報を読み取る「次世代シーケンサー」という解析装置を用い、1回の検査で100種以上の遺伝子を調べます。「がん」の遺伝子を詳しく調べて、遺伝子の変異に応じた治療薬を選択する、「新しいがんの個別化医療」です。検査の結果、新たな治療薬が見つかり、長期生存や治癒につながる可能性があります。

対象は、原発不明がん、標準的な治療法が確立されていない希少がん、標準的な治療が終了した固形がんの方が対象で、全身状態及び臓器機能等から、主治医が本検査施行後に化学療法の適応となる可能性が高いと判断した場合に限ります。

当院ではOncoGuideNCCオンコパネルとFoundationOne CDxがんゲノムプロファイルの

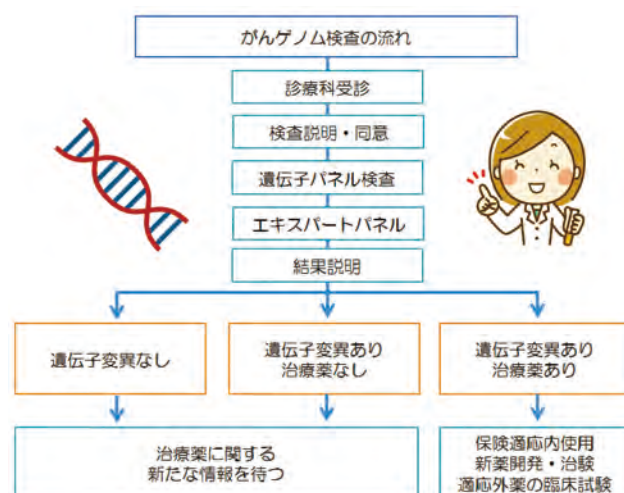
2種類の遺伝子パネル検査に対応します。

検査の結果、特定の遺伝子変異があった場合には、解析結果について複数の専門家で構成されるエキスパートパネル(神奈川県立がんセンターとの検討会議)を経て推奨される治療薬が決まります。

この検査を受けた患者さんの半数近くの方に、何らかの遺伝子変異が見られ、10～20%が、効果が期待される新たな治療および臨床試験や治験を受けています。

＜検査の流れ＞

がんゲノム検査の結果が出るまで約1～2か月かかることもあります。その間病状が悪化し、治療が困難になる場合もあります。ご紹介の際は、最後の標準治療を開始した時点など、少し早めに患者さんをご紹介ください。



＜費用＞

保険適用3割負担の場合

検査費用24,000円

検査の実施と結果説明に係る費用144,000円

※紹介の受け入れ体制が整いましたら、改めて別途ご案内をさせていただきます。

【担当】

横浜市立みなと赤十字病院
がんゲノム医療センター
045-628-6317(直通)

紹介患者さんのお問い合わせご予約は医療連携課で承ります

電話 045-628-6365(直通)/FAX 045-628-6367(直通FAX) 受付時間 平日 8:30～17:00



日本赤十字社

横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下3丁目12番1号
TEL:045-628-6100(代表) FAX:045-628-6101



<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

みなと赤十字

検索

病院ホームページ